

まっくでは、跳び箱が跳べないのは運動能力がないからではなく、恐怖心という「精神的な問題」であることを発見しました。

さらに子どもの生まれ順で「伸び方」に違いがあることも分かってきました。例えば、左図に示す通り人生の前半(短期間)で一番伸びるのは末っ子でこれを「早咲き型」といい、コツコツ階段を上るように伸びるのは第一子で「標準型」、中々効果が出ず人が忘れた頃や人生の後半で成果がでる「遅咲き型」が中間子です。このことを念頭において子どもを見、対応すると子どもが持っている個性が順調に伸びます。

◎第一子の場合(最初に生まれた子●○、●○○、一人っ子●)の特徴



その1：理論思考

第一子は「理論思考型」です。納得しないと行動に身が入りません。「いいからやりなさい、まずやりなさい」的なやらせ方はだめです。

その2：競争させない

効果を急がず人と競争もさせない。「人は人、あなたはあなた」的な接し方が大切。できる子が出てくると途端に「嫌い」とやらなくなる。

その3：習いごとは3種目まで

期待いっぱい生まれた子なので、やらせたいことがいっぱいですが第一子は、一つ一つ済ませないと次に進めない。習いごとは3種目。

◎中間子(上下に兄弟姉妹がいる子○●○、亡くなった人入れる×●○、○●×)の特徴

その1：システム思考

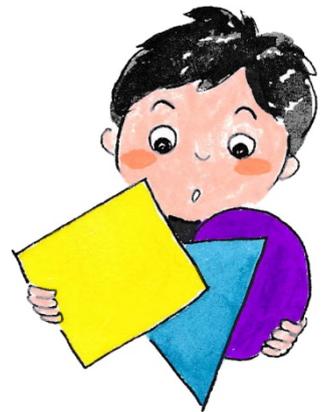
同時に幾つものことを考え、同時進行で行動するので成果があがらない。色々することも目に見える効果にならない。

その2：大器晩成型

あれこれ抱え込む面があり、急ぐ効果はあがらない。少し厳しすぎるくらいに接する方が効果があがり本人のために。

その3：厳しく接する

成人すると芯の強い性格になるが、幼児期はメソメソしやすいので優しくしがちですが、厳しい方が将来本人のために。



◎末っ子(二人以上の一番下の子○●、上が亡くなった場合も×●)の特徴



その1：感覚思考

考えるより先に「カラダが動くタイプ」。芸能、芸術、スポーツ選手向き。理論より実践向き、見ているだけででき天才型といえる。

その2：三日坊主の天才

三日坊主の代表選手、飽きっぽくやれば伸びるのにやめてしまうのが末っ子。スポーツでは個人種目向き、数字で競うような種目が好き。

その3：自己主張が強く熱しやすく冷めやすい

いい悪いは別にして「100点取れたらほしいものを買ってあげる」や競争相手がいるなど具体的な目標があると伸びるタイプ。